

研究実施のお知らせ

研究課題名：当院で経験した直腸粘膜脱症候群患者様の臨床的検討

研究期間：倫理審査委員会承認日～2019年4月30日の予定

仙台市立病院では、上記課題名の研究を行います。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成29年5月30日施行)に基づき、匿名化された情報(診療録等)の研究利用について、以下に公開いたします。

【研究の対象となる方】

2015年4月から2018年9月まで当院で大腸内視鏡検査が施行されて直腸粘膜脱症候群と診断された12名の患者様を対象とします。生検病理検査で特徴的な繊維筋症を認められた方を確診例(8名)、繊維筋症が検出されなくとも内視鏡的に直腸粘膜脱症候群と診断し他疾患を除外できたものを疑診例(4名)とし併せて検討します。

【研究の目的と意義】

直腸粘膜脱症候群(MPS:Mucosal Prolapse Syndrome)は直腸において顕性または潜在性の粘膜脱出があり、組織学的に粘膜固有層の平滑筋繊維と膠原繊維の増生(繊維筋症)を認める良性疾患です。排便時のいきみなどが誘因となり発症し、多彩な内視鏡像を呈します。生検で特徴的な繊維筋症の検出が難しい場合があり、ときに大腸癌などの悪性疾患や他の炎症性疾患との鑑別を要するため、的確な診断が求められます。当院でMPSと診断された患者様について後方的に検討を行い、その臨床的特徴を明らかにし、今後の診断能力が向上することを本研究の目的とします。

【研究の方法】

後方視的に電子カルテより病歴を拾い上げ、各種画像を選出します。病理組織所見については病理医と検討のうえ、選出します。

【研究に用いる試料・情報の種類】

診療録に記録された診療情報(経過、大腸内視鏡画像、病理組織学的所見)を研究に使用させていただきます。使用に際しては、倫理指針等により個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

【研究の実施体制】

この研究は、単施設研究として、以下の研究機関で実施されます。

主任研究者：野村栄樹 仙台市立病院消化器内科

分担研究者：大山秀晃、菊地達也 仙台市立病院消化器内科

【お問い合わせ先】

この研究への情報提供を希望されないことをご申し出いただいた場合、その患者様の情報は利用しないようにいたし

ます。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が学会・論文などで公表されていた場合などは、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先までお問い合わせください。この研究への情報提供を希望されない場合でも、診療上何ら支障はなく、不利益を被ることはありません。

仙台市立病院 消化器内科

科部長：菊地達也（当院の研究責任者）

または 医長：野村栄樹

仙台市太白区あすと長町一丁目 1 番 1 号

電話：022-308-7111(代表)